

人生の最期を豊かに過ごす余暇支援をめざして —余暇サービスの拡大と質の向上、職員負担を考える—

○草壁孝治 今井悦子 福田卓民 (医療法人社団慶成会青梅慶友病院)

1. はじめに

人の生活において、楽しみは重要であり、高齢者にとっても同様であることは誰もが理解している。先行研究などにより、余暇を支援する上において、より楽しさを高める迫及はされているが、現実の場面ではそれのみではなく、参加人数の増大や参加対象者の拡大、さらには提供する側の人員や方法などについての効率化を図る必要がある。今回はA老人病院におけるそれらの調査結果を報告する。

2. 調査方法

調査施設：A老人病院 許可病床数：736床 男女比：22.8%：77.2%

平均年齢：88.2歳（2012年9月1日現在）

調査期間：2010年4月から2012年9月

- 調査内容：(1)余暇活動全体の月別参加人数とその推移
 (2)参加者が増加した活動の月間参加人数とその推移
 (3)質の向上を目的にした改善項目数とその内容
 (4)余暇活動提供に要した総労働時間
 (5)1時間当たりの対応人数

表1 A老人病院での余暇活動種目

＜日々の余暇活動＞			
活動内容	開催時間	開催頻度	内容
院内デイ	8時間	毎日(年末年始2日間を除く)	手芸や身体活動ほか
認知症デイ	8時間	毎日(日曜、年末年始2日間を除く)	ビデオ鑑賞や身体活動ほか
病棟レクリエーション	1時間20分間	1回/週	手芸、書道、コーヒー
歌の会	30分間	2回/週	斉唱
リラクゼーション	20分または40分間	1～3回/週	マッサージ
＜月間の余暇活動＞			
コーラス倶楽部	45分間	1回/月	コーラス
映画	1時間15分間	2回/月	映画
コンサート	1時間	1回/月(同日に2回開催)	コンサート
ホール生演奏	20分間	2回/月(同日に3回開催)	コンサート
ピアノ生演奏	30分間	不定期	ピアノで生演奏
＜年間の余暇活動＞			
宗教的活動	45分間	8回/年	法話会、礼拝、讃美歌など
季節のイベント	6時間/日×5日間	4回/年	季節の食べ物を味わう会
写真撮影会	5時間30分間	1回/年	家族と一緒にの記念撮影
和菓子の会	1時間	1回/年	職人技を見ながら和菓子を食べる

3. 結果

(1)余暇活動全体の月別参加者数とその推移

対象期間内の余暇活動への参加人数は延べ人 201,316人で、ひと月平均は6710.5人だった。6カ月ごとの移動平均で傾向を示すと、参加総数は2011年8月をピークに下降し、2012年4月以降は上昇傾向にあった(図1)。また、対象期間を6カ月ごとに5分割した場合、最も参加者が少ないのは2010年度上期のひと月平均6082.7人で、最も多いのは2011年上期の7227.7人だった(図2)。

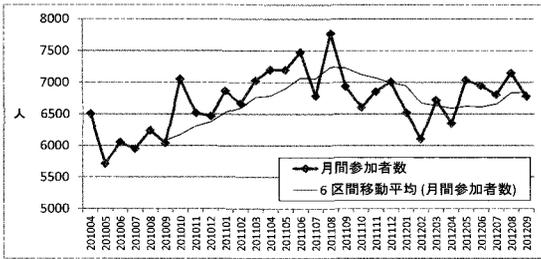


図1 余暇活動への月間参加者数の推移

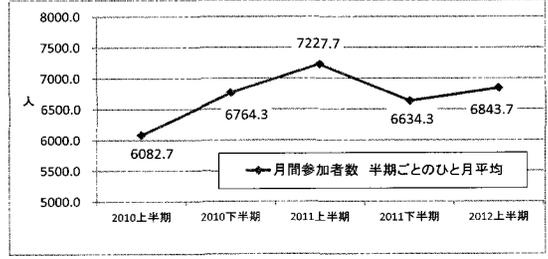


図2 半期ごとのひと月平均値の推移

(2)参加者が増加した活動の月間参加人数とその推移

活動別参加人数のうち、増加がみられた活動は病棟レク、ホール生演奏、ピアノ生演奏であった(図3)。前項同様に対象期間を5分割した場合、ピアノ生演奏の参加人数は減少し、他の2種目は増加傾向にあった(図4)。

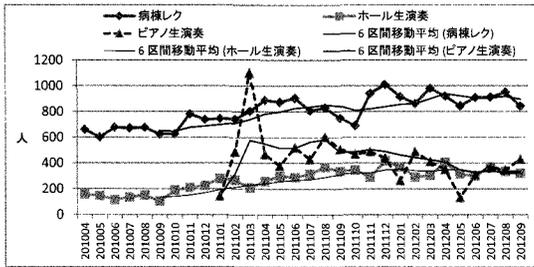


図3 各余暇活動の月間参加人数の推移

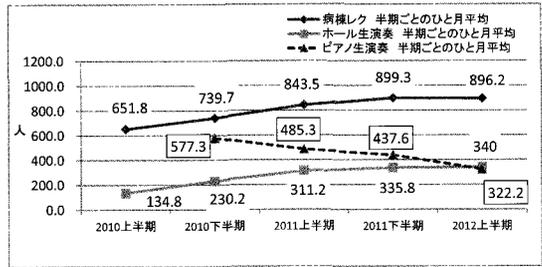


図4 半期ごとのひと月平均値の推移

(3)質の向上を目的にした改善項目数とその内容

各余暇活動の質の向上を目的に改善した件数は、日々の余暇活動に対し18件、月間のイベントに対し23件、年間のイベントに対し93件、計134件であった。日々、月間、年間の項目ごとに改善内容を分類し、項目の一部を表2に示した。

表2 余暇サービス改善点

<日々の余暇活動>	<月間のイベント>	<年間のイベント>
選択肢の増加	業務手順の見直し	業務手順の見直し
システムの見直し	システムの見直し	物品の見直し
雰囲気作り	活動内容の見直し	選択肢の増加

(4)余暇活動提供に要した総労働時間

余暇活動提供に要した職員の月間労働時間は平均で1572.4時間であり、その傾向は2011年10月をピークに下降していた(図5)。また、前項同様に対象期間を5分割した場合、2011年上期から減少し、その後2期間は横ばいであった(図6)。

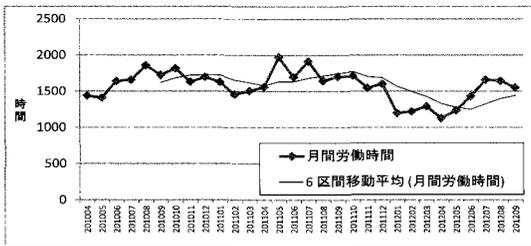


図5 職員の月間労働時間の推移

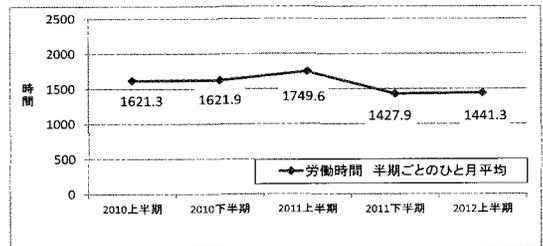


図6 半期ごとのひと月平均値の推移

(5) 1時間あたりの対応人数

参加人数を要した労働時間で割ることで、1時間あたりに対応する人数を算出した。対象期間内の最少対応人数は3.4人、最大対応人数は5.7人であった(図7)。半期ごとのひと月平均値は年々増加傾向にあった(図8)。

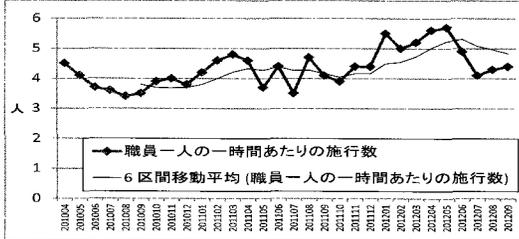


図7 職員一人あたりの一時間単位での施行数の推移

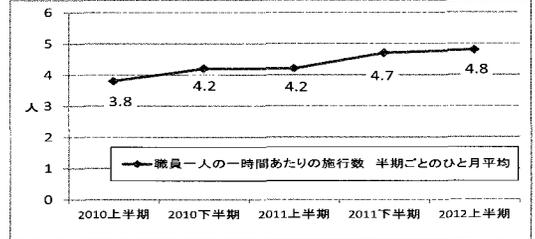


図8 半年間の月間平均値の推移

4. 考 察

(1) 参加人数の増加とその要因

参加者数の半期ごとのひと月平均値は2010年上半期の6082.7人から2011年上半期での7227.7人へと増加した。直接的な増加要因は病棟レク、ホール生演奏、ピアノ生演奏の3種目における参加者の増加である。

従来「病棟レク」は、手芸や書道ができる活動性の高い人を中心に行っていた。参加できる対象者の幅を広げるべく提供するサービスの枠を広げ、雑誌やパズルなど一人でも気軽に楽しめるツールをワゴンに乗せて用意し、活動性の低い人も参加できる機会を作った結果、参加人数が244.4人増えた。

また、病棟側のニーズに合わせ、月4回のうち1回を手芸や書道ではなく、幅広く参加できるコーヒーの会としたことも参加が得られた要因となった。

「ホール生演奏」は、月1回から月2回の開催とした結果、134.8人から343.8人と倍以上に参加人数を増やした。

「ピアノ生演奏」は2011年1月からの新種目で、担当者は2名の職員(常勤換算1.2人)で担当している。従来は歌の会でのピアノ伴奏が業務のほとんどであったが、スケジュールの単純化や演奏時間の工夫により、不定期ではあるが月に数日の試行を実施し、入院患者やその家族、職員などに対し効果が見込まれると判断し導入した。

調査期間中の月平均参加人数は435.2人で、それらは新規項目の参加者となり増加要因であった。

(2) 余暇活動の質の向上への改善点

余暇活動の質を向上させるために取り組んだ一例をあげる。

- 1) 「日々の余暇活動」においては、参加者が楽しめる機会を増やすために、麻雀、楽器演奏ほか、活動種目を増やした。
- 2) 「月間のイベント」においては、イベントの入場時において、入場手続きを簡素化し、入場をスムーズにした。

3) 「年間のイベント」においては、対象者が入院患者 700 名とその家族となり、会場が混雑し、待たせることもでてくる。その待ち時間に映像を鑑賞できるように場を設定し、待つことを感じさせない工夫を行った。

(3) 職員の労働時間と参加者数の比較

労働時間と参加者数のそれぞれの半期ごとのひと月平均を重ね図 9 に示した。参加者数は 2011 年上半期では 7227.7 人と増加し、それに対し、労働時間はほぼ横ばいで参加者数を増やしたことになる。その後、人員数の関係で労働時間が減少し、参加者数も減っている。これは、人員減により特定イベントを一時的に中止した結果で、その後は他のイベント等の参加人数の増加に伴い再び増えたものと思われる。

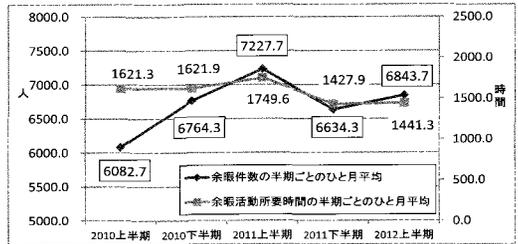


図 9 参加者数と職員の労働時間の比較

(4) 職員一人あたりの一時間単位での施行数の増加

一時間あたりの対応数の半期ごとのひと月平均値は、2012 年上半期では 4.8 人と約 1 人の増となっている。労働時間が減少しているにもかかわらず参加者数が増加したことは、限られた人員や時間で効率的に対応する工夫によるものと思われる。

5. まとめと今後の課題

余暇サービスを行うにあたって、その楽しさを追求することは大切であるが、それに伴い、参加人数を増やし、活動の質を向上させることも同時に重要である。さらに実際にレクリエーションを実施する現場は、一日の限られた時間の中で行わなければ、業務負担は増える一方で、継続が困難となる。そこで、一つ一つの活動ごとに、ある程度のパターンができたところで業務を見直し、効率化を図ることが重要と考える。そうすることで、次の新たなサービスを増やすことにつながる (図 10)。

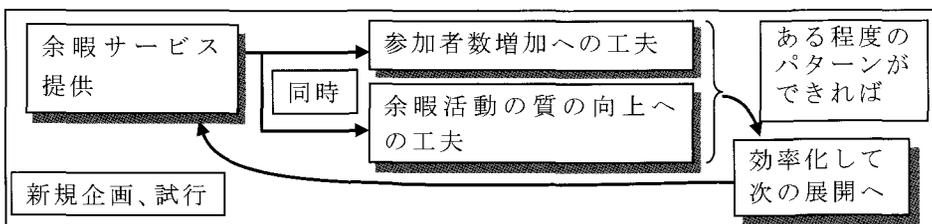


図 10 余暇サービス展開のサイクル

余暇サービスの質を向上するには、参加者の満足 (参加人数増加、活動の質の向上) と職員の満足 (業務改善など) を追求していくことが大切と考える。